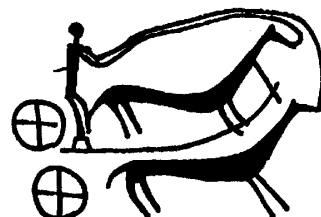


センターニュース

Hokkaido University
Center for Research and Development in Higher Education

北海道大学高等教育機能開発総合センター

Newsletter No. 22



高等教育機能開発総合センター研究発表会	3
全学教育委員会開催される	3
演習林と流氷研を利用したフレッシュマンセミナー	4
T・A研修会のお知らせ	5
札幌市リカレント講座が開催される	5
士幌町生涯学習講座が始まる	6
総合講義「大学と社会」行われる	6
学術講演会のお知らせ「近未来の情報教育について」	7

巻頭言

FOREWORD

教育ワークショップへの参加と説明責任 - 水産学部のシラバス作り -

水産学部教授 猪上 徳雄

昨年 11 月 27 , 28 日の両日にわたって教育ワークショップ (FD) が開催されたことは前回のセンターニュースでも詳しく掲載されていましたが, 水産学部からも 3 人が参加しました。このようなワークショップが総長のプロデュースのもとで全学的に行われ, しかも 45 名が宿泊する形式での研修は従来にはなかったのではないのでしょうか。学部の枠を越えて教官が話し合う機会となったことの意義は大きいと感じるには十分でした。ここに, FD 研修参加後に水産学部では実際にどのように取り組んでいるかを報告させていただきます。

リラックスできる普段着で参加して実のあるものにしたいという呼びかけがありましたので, このチャンスに気楽に参加して何かを得られればよいと思っていた 1 人です。そんな気楽さとは裏腹

に研修が終わった今, 参加して「勉強になりました」「有意義でありました」では済む訳でもないことが身にしみてきています。「有意義であった」ことを外から評価してもらうためには何かをやらなければならないというのが, 今回の研修に求められたものであるからです。

学生には自主的に学ぶことを求め, しかも評価できる形で何かを実施させてみることを要求しています。そうであれば学生参加型の授業を体験する今回のワークショップのゴールとしての評価は, 学生の立場で考えれば, やはり何かを形で表現して評価を受けなければなりません。アカウントビリティー

(説明責任)を考えれば水産学部の1枚の出張報告書のみで済むものではありません。学生の立場に立ったシラバス作りの重要性を学んだうえで、学部のシラバスを開いてみると、ワークショップに参加した者としては全面的に改訂して、その成果を評価してもらうことしか残されていませんでした。事実、学部別シラバスの記載内容の評価(学業成績評価について—教官・学生によるアンケート調査—,平成10年3月;「平成9年度北海道大学年次報告書」からの抜粋)もそのことを裏付けていました。

現在水産学部で使用している授業内容一覧(専門教育科目)は、平成7年度の学部一貫教育のスタートに合わせて十分な時間がないまま作成され、その後毎年の印刷時に一部を修正しながら4年間が経過しています。さらに教官の立場から記載されているものです。そこで今回学生の学習目標を明確にすることを優先し、思い切って全面改訂する意義は大きいと判断した訳です。これらの点からFD研修に参加した3人は学部のシラバスを改訂することで意見が一致し、研修終了3日後の12月に入り直ぐに準備にかかり、12月24日には水産学部全教官宛にシラバス原稿依頼の13ページの小冊子(教官にはあまり嬉しくないクリスマスプレゼントになることは覚悟のうえで)を配布するまでこぎつけました。時間の経過と共に研修で得た熱意も薄れかねませんので、早いに越したことはないと考えたのが急いだ理由です。もう1つ、平成11年度入学の新入生に間に合わせたいということもあります。研修を受けて1カ月以内に対応することが出来たのもワークショップの成果といえます。学生に対する一方的な講義と同じ講演方式の研修ではなく、ワークショップ形式で行われたことの意義もそこにあったといえます。

丸2日間の研修と改訂版の準備作業は長時間にわたるものでしたが、一応の形を整えて前述のようにシラバス改訂案内冊子の配布が完了しました。この間、研修中のディレクターでありました阿部さん(FD研修中での呼び方)にはご多忙のなか幾度となく相談に乗っていただきました。この

原稿を書いている間にもメール(今回は原則としてメールで原稿を集めることを試みました)でシラバスの原稿が送られてきており、手応えは十分です。この事実から、研修に参加して他学部の教官の方々の教育に対する熱意を知ることができ、北海道大学の前途が明るいと感じたと同じように、水産学部の教官の熱意が伝わってきます。今回のシラバス改訂は一気にレベルの高いものを目指しましたので、どこかに無理が生じるかも知れませんが、成果としての冊子の内容を教官が相互に知ることにより充実したシラバス作成に向けた次のステップに継承したいと考えています。

大学(学部)の社会的存在理由としての説明責任を求められている今、「今時の学生は勉強しない」と嘆く前に積極的な目的意識を持った学生が学びたいと思わせることを考えることは大切です。よりよいシラバス作りはその意味でも実行しなければなりません。大学(学部)に入学してから、こんなことが学べるのだ、と知らせるのではなく、広く社会に向けて大学(学部)で学んだ学生は何かできるようになるのか(学習目標の設定)、何ができる人材を社会に送り出そうとしているのか(大学あるいは学部の学習目標)を公開することが、社会に対する説明責任ともなります。

今まで猛烈な勢いで進んできた私達は今、これからの食料問題をかかえて“海は人を救えるか”を考えなければならず、人間活動がもたらした海洋環境への負荷に対しては“人は海を救えるか”を問いかねられながら21世紀へ向かっています。この壮大な課題に教官と一緒に立ち向かう学生を求めて水産学部のシラバス作りが進行中です。

最後になりますが、今回の教育ワークショップを企画し、実行されましたタスクフォースのみなさんに感謝いたします。

(編集部注:シラバスの見直しは医療技術短期大学部でも進行しています。来年度には、学部単位のFD研修が工学研究科ならびに歯学部で実施される予定です。)

センター CENTER

センター研究発表会のご案内

本センターの専任教官および学内外研究員の研究活動について、広く学内外の方々に知っていただき、またその内容について討論していただくために、第4回センター研究発表会を下記のような内容で開催いたします。多くの方々のご参加を期待しております。

日時：平成 11 年 3 月 9 日（火）

会場：高等教育開発研究部2F会議室

（農学部棟の東「旧図書館」…赤い屋根の木造建物）

< 午前の部：生涯学習計画研究部 >

9:00 ~ 9:40

諸外国の高等教育と生涯学習（2）

ケンブリッジ大学における継続教育 竹内 新也

フランス高等教育の新動向 町井 輝久

9:40 ~ 10:00

社会との連携による総合講義「大学と社会」の成果と課題—学生アンケート調査及び講師からの聞き取りによる調査から— 町井 輝久

10:00 ~ 11:00

大学と地域の連携による公開講座

北海道大学と士幌町の連携による公開講座 3 年間の成果 木村 純

教育学部出前講座における地域との連携

講師未定

札幌市リカレント教育推進事業と大学との連携

大瀬 秀樹

11:00 - 11:50

大学における職業人教育の課題

工学部卒業生追跡調査の結果をもとに

小林 甫 他

< 午後の部：高等教育開発研究部 >

13:00 ~ 15:00

大学生の授業における態度と数学教師の対策

— 日本数学会のある調査より — 西森 敏之

情報教育における学生を中心とした授業

高橋 伸幸、乳井 英雄、小笠原 正明

米国のアドミッションオフィス

— その機能と組織 — 細川 敏幸、小川 悟

「大学入試改革の研究会」報告—高校と大学の教育をどう接続するか— 小笠原 正明

コアカリキュラムの視点から見た全学教育

阿部 和厚

全学教育 GENERAL EDUCATION

全学教育委員会開催される

2月8日に第23回（平成10年度第5回）全学教育委員会が開催され、つぎのような議題について話し合われました。

議題1．全学教育委員会の構成について

議題2．「不履修（無欠）」の取り扱いについて

議題3．平成11年度全学教育科目に係るT・Aの研修について

議題4．全学教育科目実行教育課程表の変更について

報告事項1．「学生生活実態調査における学生からの要望」に対する取り扱いについて

報告事項2．その他

議題1では、全学教育委員会規程が改正され、次年度より委員の選出を半数ずつ改選する制度となったのに伴い、その区分をどうするかについて

の原案が小委員会より示され、審議の後了承されました。その結果、11年度には文・法・理・歯・工・獣および言語の7部局からは3年任期の、教・経・医・薬・農・水および地球環境の7部局からは1年任期の委員の選出をお願いすることとなりました。これに対して委員長から、この制度は委員会の継続性を図るために設けられたものであり、1年任期の委員を選出することとなった部局については、推薦にあたっては更に2年の再任の可能性も考慮願いたい旨の要請がありました。

議題2では、全学教育科目における成績評価としての「不履修（無欠）」を廃止することが承認されました。前回の委員会で承認された「要履修」の廃止を受けて、現在、成績評価としての「不履修（無欠）」を学科分属に利用されている文学部、農学部、水産学部には照会を行い了承を得たものです。この際、文学部より学生の修学指導をするにあたり、学修簿に履修状況の記録が残るようにしてほしいとの要望が出されました。このため、つぎの処置をとることが提案され、審議の後これが承認されました。

(1) 評価としての「不履修（無欠）」は廃止すること。(2) 評価対象外の科目については、成績報告表にこれまでの「無欠」の欄に「5」と表示し、この欄を利用して報告すること。(3) 評価対象外とする判断は担当教官に委ねること。(4) 評価対象外となった科目については、学修簿に印を付し学生に通知すること。

実際にこの内容を明示する「実施の手引き」「成績報告表」の変更案が了承されました。

議題3では、昨年度に引き続いて、T・Aの研修会を3月16日に実施する予定について高等教育機能開発研究部の阿部部長より内容説明があり、審議の後これが了承されました。

議題4では、要履修の廃止に伴う歯学部、薬学部および工学部の全学教育科目実行教育課程表の変更について説明があり、これが了承されました。また、来年度の健康科学演習の開講期の変更（第2学期開講予定の1コマを第1学期に開講する）を試行として行うことが提案され、審議の後これが了承されました。

報告事項1では、前回の委員会で小委員会に委ねられた上記「要望」に対する全学教育委員会としての回答案について身崎委員より報告され、これが承認されました。

報告事項2では、教育学部須田委員より、正課体育とスポーツに関する調査を学部3年目および大学院修士課程1年目学生を対象に実施したこと、およびその集計結果を5月頃に報告する予定であることが報告されました。また、薬学部野村委員から、薬剤師国家試験の時期が早まることが予想され、それに併せて専門科目のカリキュラム改訂を考えており、全学教育科目についても影響がでることになるので、その際は全学教育委員会でも検討してもらいたい旨の報告がありました。

(山口 佳三)

演習林と流水研を利用したフレッシュマンセミナー

今年も3月1日から5日間にわたり「付属施設を利用した自然・農業と人間に関する教養教育」の一環として、雨龍演習林（幌加内町）と流水研究所（紋別）を利用したフレッシュマンセミナーが行われます。本年度のセミナーとしては、昨年9月に実施した附属牧場に続き2回目になります。

このセミナーは、北海道北部の「森林 - 酪農」

地域を対象に、寒冷気象や冬の森林を体験し、森林の環境保全機能や、森林をもとにした生産活動・農業・酪農を通じた地域振興の取り組みを学習し、寒冷地の生活についての理解を深めることを目的にしています。複数の学部から10名をこえるスタッフが参加し、多方面から森林理解が得られることを目指しています。

28名の参加者は、1日目に演習林の施設の概要

の説明を受け、2日目には冬山を踏査し森林観察や観測施設の見学を予定しています。3日目は紋別に移り流氷研を見学するとともに、オホーツク海・北方林・海岸林・酪農家を視察し、厳しい北方の自然を体験します。4日目早朝は雪結晶のレプリカ作製に挑戦し、午前中は地域活性化に取り組む地域産業を見学します。ササの紙漉きや伐採

作業現場、造材作業現場で森林をベースにした生産活動の実際を見ることになります。

これらと平行して、毎夕食後にはグループ学習を実施します。グループ別の討論では、多様な意見を出してもらい他人の考えを尊重する習慣を身につけさせます。そこから、自然と人間の営みについての深い理解が得られるよう配慮されています。

高等教育

HIGHER EDUCATION

T・A研修会のお知らせ

T・A制度によって多くの大学院生が学部教育（全学教育）に参加するようになりました。この制度は広い意味の大学院教育の一環として位置づけられており、大学教師になるための重要な実地訓練の場ともなっています。大学院学生は教官とともに学部教育に参加することによって、自分の専門についてより一層理解を深めるとともに、教育の現場において教えるとはどういうことかを理解することができます。この研修は、全学教育を担当する大学院学生の教育訓練のために昨年度から開始されたものです。なお、希望により全学教育以外の各学部における学部教育のT・A任用予定者も参加できますので、関係大学院生に参加をおすすめ下さい。

日時：1999年3月16日（火）午前10時より午後3時30分まで

場所：学術交流会館第1会議室（および第2会議室）

〔プログラム〕

<午前の部>

1. はじめに（高等教育：阿部 和厚）
2. 北海道大学の全学教育（総長：丹保 憲仁）
3. シラバスの意味と少人数教育の実際について（高等教育：西森 敏之、細川 敏幸）

<午後の部>

4. 論文・レポートの書き方の指導について（高等教育：小笠原正明）
5. 実験指導のポイント（理系 T・A対象）

生涯学習

LIFELONG LEARNING

札幌市リカレント講座が開催される

生涯学習計画研究部が参画する札幌市リカレント教育研究会と札幌市教育委員会の共催による、「札幌市リカレント講座」が始まっています。西区に建築中の札幌市生涯学習総合センターを拠点とする、札幌市とその近郊の大学・高等教育機関のネットワーク型の「市民カレッジ」を実現する

ための実験的な取り組みです。

今年は10講座の開設を目標に、市民参加のワークショップを中心とする『まちづくり実践講座』（11月25日～2月5日 札幌市立高等専門学校他協力）や『高齢社会の「介護」を考える』（12月1日～1月26日 北星学園大学・北海道医療大学

協力)などが開催されていますが、生涯学習計画研究部では北星学園女子短期大学と協力して『ボランティアリーダー・コーディネーター実践講座』を開設しました。この講座は、ボランティア活動を発展させるための理論・方法を学習する講座として企画されたもので、以下のような日程で札幌市社会福祉総合センター等を会場に開催されています。

- 1月28日 ボランティア活動とNPO法
北海道NPOサポートセンター事務局長
小林 董信
- 2月4日 相互交流・討論

- 2月18日 コミュニティ活動とボランティア
北星学園女子短大助教授 内田 和浩
- 2月25日 ボランティア活動と自己表現
北海道医療大学看護福祉学部助教授 長谷川 聡
- 3月4日 ボランティア活動とコンピューターネットワーク
北星女子学園短期大学専任講師 水川 喜文
- 3月11日 ボランティアはどのように生まれ育つか
北海道大学生涯学習計画研究部助教授 木村純
40名の定員を上回る応募があり、盛況の中で現在講座が進行しています。

士幌町生涯学習講座が始まる

北海道十勝管内士幌町の公開講座は農村地域の生涯学習と大学との連携、まちづくりに関わる公共的リカレント教育のあり方、遠隔教育における大学の役割などについて研究することをめざして、士幌町と町教育委員会の協力を得て実施され、3年目を迎えます。今年度のテーマは町関係者との協議の結果「新しい農村環境の創造と生涯学習」と決まり、地域の大学の協力を得て(地域の生涯学習に関わる大学のネットワークづくりの試み)、1月30日～2月27日の間の6回にわたり、以下の日程・内容で開催されています。町民、町職員、町議会議員など53名の受講者を迎えて、質問・討論も年々活発になっています。

- 1月30日 新しい農村環境の創造を考えるパネル

ディスカッション

- 酪農学園大学教授 安田 勲 他
- 2月2日 環境ホルモンと私たちの暮らし
北海道大学医学部助教授 斎藤 健
- 2月9日 地域の資源を生かした食生活―置戸町の取り組みから―
置戸町学校給食センター栄養士 佐々木 十美
- 2月16日 農村をおもしろくするには
グローバル地域研究所主宰 小松 光一
- 2月23日 子どもが育つ場としての農村
北海道教育大学釧路校助教授 玉井 康之
- 2月27日 農村環境と魅力ある暮らし・シンポジウム
帯広畜産大学地域共同研究センター長 美濃羊輔 他

総合講義「大学と社会」行われる

平成10年度後期の全学教育科目総合講義として地域や産業界で活躍する北海道大学OBが毎回講師として参加する「大学と社会」が、毎週金曜日3講時に280人の受講学生を対象に行われました。

この講義は、リアルワールドと大学での学びのあり方を結びつけ、大学だけでなく広く社会に出

てからも学び続ける生涯学習の視点を身につけて貰いたいということから始まったものです。

堀北海道知事をはじめ、自治体、産業界、教育界、法曹界、マスコミ、病院、試験場等、北海道大学を卒業後社会の各分野で活躍している人たちは、社会人として様々な諸課題に取り組むことを

通して、「今、そしてこれから職業人としてどのような資質が求められるか」、そのために「大学でなにをどのように学ぶ必要があるか」、社会人として活動する上で「もっと学んでおきたいことはどんなことか」、「北海道大学や北大生にどんなことを期待しているか」について講義を行いました。

学生諸君は講義を通して「自分の進路」「進路と結びつけた学びの課題」「大学における学び」や「将来の生き方」について考える機会となったことを感想の中で述べています。どの回も多くの質問が出され活発な授業となりました。11月27日には高等教育機能開発総合センターニュース No. 21号にも紹介されたように、東京同窓会長もつとめる前 NTT 社長児島仁さんをはじめ産業界リーダーのOBによるシンポジウムも行われました。

学生の反応は「後期もっとも参考になった授業

の1つ」「もしも来年この講義があったら単位に関係なく是非参加してみたい」「北海道大学のすばらしさに気がつき、自分の責任の重さを知ることができて良かった」など、大変好評で、「来年も継続して欲しい」という声がほとんどでした。

講師の方々も講義の準備に大変時間をかけられる方が多く熱のこもった授業が行われました。

講義の評価法の1つとして、「講師への手紙」を書き、それを講師の方々に直接採点していただく方法も試みました。これらの結果につきましては学生へのアンケート調査を含め、3月9日の高等教育機能開発総合センター発表会で報告されることになっています。

総合講義「大学と社会」は、平成11年度も新しいOBメンバーによって開講されることになっていて、現在各部局の協力を得ながら人選が行われています。

学術講演会のお知らせ「近未来の情報教育について」

北海道大学情報処理教育センターでは、下記の学術講演会を開催いたします。本講演会は一般公開（無料）しています。

主催：北海道大学情報処理教育センター
共催：高等教育機能開発総合センター高等教育開発研究部、情報処理学会北海道支部
日時 3月26日（金）午後1時～6時
場所 北海道大学情報処理教育センター1階講義室（札幌市北区北11条西5丁目）

2003年度までにすべての小・中・高等学校においてインターネット接続が可能になり、また、高等学校では『情報』の教育が始まります。北海道大学では、教育用情報環境を整備・高度化するために、この4月に、情報処理教育センターを改組し、情報メディア教育研究総合センターを設置する予定です。

本講演会では、「近未来の情報教育」について、慶応大学湘南藤沢キャンパスで情報教育をリードされ、情報処理学会初等中等情報教育委員会委員長でもあります慶応大学の太田先生、情報

危機管理論を提案され、高等学校試作教科書を執筆されております早稲田大学の辰己先生、マルチメディアを活用した教育に先進的な取り組みをされておられます稚内北星学園短期大学の丸山先生をお招きし、ご講演をしていただく予定です。

本講演会では、現在公開されております高等学校の『情報』試作教科書を配布（無料）する予定です。

講師：

太田 元（慶應義塾大学）

辰己 丈夫（早稲田大学）

丸山 不二夫（稚内北星学園短期大学） 他

問い合わせ先：

北海道大学情報処理教育センター受付
札幌市北区北11条西5丁目
TEL: 011-717-0314（内線電話は3543）
FAX: 011-706-4927
e-mail: center@hipecs.hokudai.ac.jp
www: http://www.ec.hokudai.ac.jp

試作教科書をご希望の方は、上記問い合わせ先に、3月15日（月）までにお申し込み下さい。

センター日誌

CENTER EVENTS, Dec. - Jan.

12月

- 3日 ・放送講座(ラジオ)スクーリング(函館)
- 9日 ・放送講座(ラジオ)スクーリング(帯広)
- 10日 ・(会議)第38回全学教育委員会小委員会
- 11日 ・(会議)センター長・部長会議
- ・(会議)第22回全学教育委員会
- ・(会議)第14回放送教育専門委員会
- ・放送講座(ラジオ)スクーリング(北見)
- 14日 ・(会議)第39回全学教育委員会小委員会
- 16日 ・(会議)第10回公開講座専門委員会
- ・放送講座(ラジオ)スクーリング(函館)
- 17日 ・放送講座(ラジオ)スクーリング(札幌)
- 18日 ・(会議)大学院委員会
- ・(会議)第23回センター運営委員会
- 22日 ・放送講座(ラジオ)スクーリング(旭川)
- 24日 ・(会議)第37回センター連絡会議
- ・(会議)第7回教務委員会
- 25日 ・(行事)学位記授与式(博士)
- ・(出版)「センターニュース」第21号発行

28日 ・御用納め

1月

- 4日 ・御用始め
- 7日 ・(会議)第2回センター予算・施設委員会小委員会
- ・放送講座(ラジオ)スクーリング(札幌)
- 8日 ・放送講座(ラジオ)スクーリング(北見)
- 12日 ・(会議)センター長・部長会議
- 16日～17日
- ・(行事)大学入試センター試験
- 20日 ・(会議)第3回センター予算・施設委員会小委員会
- 22日 ・(会議)第38回センター連絡会議
- 25日 ・(会議)第11回公開講座専門委員会
- ・(会議)平成10年度第2回SCS事業連絡協議会
- ・SCS視察(小樽商科大学5名)
- 29日 ・(会議)第40回全学教育委員会小委員会
- 30日 ・公開講座「新しい農村環境の創造と生涯学習」
- (2月27日まで6回,士幌町)

行事予定

SCHEDULE, Mar. - Apr.

	【日(曜日)】	【行事】	【備考】
3月	1(月)	追試験成績提出締切	
	12(金)	北海道大学第2次試験(後期日程)【予定】	
	中旬～下旬	学科等分属手続	当該学部
4月	6(火)	クラス担任代表会議【予定】	
	7(水)	新入生オリエンテーション	
	8(木)	入学式	
	9(金)	学部ガイダンス	
	12(月)	第1学期授業開始	
	22(木)～23(金)	2年次以上履修届受付	
	23(金)	追加認定試験成績締切	当該学部
	23(金)～26(月)	1年次履修届受付	

編集後記

2月に入り、現高等教育機能開発センターに隣接して、私たちの研究室が移ることになる総合メディア交流棟の工事が始まり、作業員の方たちの詰所となるプレハブも立ちました。センターにとって貴重な緑であった白樺の木が次々と伐られていくときは寂しさを感じましたが、例年になく降り積もった雪が取り除かれて、姿をあらわした黒土を毎日眺めながら、春の訪れと建物の完成を心待ちにする日々です。(純)

センターニュース 第22号

(北海道大学高等教育機能開発総合センター広報誌)

発行日: 1999年2月25日

発行元: 北海道大学高等教育機能開発総合センター

〒060-0817 札幌市北区北17条西8丁目

電話 (011)716-2111・FAX (011)706-7854

編集委員: 小笠原正明・西森敏之・細川敏幸・

町井輝久・山口佳三

ご意見,お問い合わせは 印の編集委員まで

電話: (011)706-2194; FAX (011)706-4922

インターネット ホームページ: <http://infosys.academic.hokudai.ac.jp/center>